

サンポール、HD制移行

M & A・新規事業など柔軟対応

タイ・アジア圏で営業強化

旗ポール・車止めのトップメーカー、サンポール（本社＝広島市、山根社長）は、10月1日付でホールディングス（HD）体制に移行する。将来的な事業の多角化を見据え、国内外でのM&Aやエクステリア製品以外の新規事業参入などに柔軟に対応できる体制を整える。

資産管理会社の「サンポールHD」を設け、サンポールを完全子会社化する。タイのグループ会社・ヨーロッパフラックポールも傘下に入る予定。タイや

アジア圏でのさらなる営業強化といった意識改革にもつなげる。サンポールHDの代表はサンポールの山根社長が兼務する。

同社は創業以来、「小さなマーケットの大きなシェア」を企業理念に掲げ、旗ポールと車止めの業界でそれぞれトップシェアを誇る。近年は従来の車止めに加

え、車両の衝突を受け止める「インパクトロード」といった新製品の販売量を伸ばしており、22年9月期の売上高は50億円の大台に到達した。ただ、車止めは全国的に普及が進んでおり国内市場は成熟状態にあることから、付加価値の高い新製品の開発などと並行して新たな柱となる事業の模索も進めていた。

今後は同社の鋼管加工技術などを生かした新たな市場を開拓したい考え。新規事業は模索中だが構想中の計画もあり、山根社長は「今年中になにかしら動けたら」と話す。

多くの若手社員が活躍する同社では、社員のアイデアから誕生したヒット商品も多い。HD体制に移行することで、社員が社内起業などに挑戦しやすくなるほか、若手社員のポストを増やすことで優秀な人材の流出防止にもつなげる。今後の事業承継を円滑に行うための狙いもある。

サンポールは旗ポールメーカーとして1970年に設立。83年に車止め事業に本格参入した。23年9月期の売上高は55億円程度を見込む。今月には本社近隣に約1万平方メートルの土地を取得しており、今後は工場や倉庫などの生産体制の見直しなども進める方針。



山根社長